

バイオテクノロジー研究開発と企業の境界 - 研究提携・技術導入・アウトソーシング・海外研究に関する調査報告 -

小田切宏之 古賀款久 中村健太*

文部科学省科学技術政策研究所

* 一橋大学大学院経済学研究科博士課程

要 約

科学技術政策研究所第1研究グループでは、2001年度より「研究開発における企業の境界」と題する研究プロジェクトを発足させ、その一環として、2001年2月に、バイオテクノロジー関連産業を対象に質問票調査を行った。その調査結果を取りまとめたのが本書である。

「企業の境界」(boundary of the firm)とは、企業が行う生産・販売・経営管理・研究開発などのさまざまな活動につき、そのうちどこまでを企業内で行うか、どこまでを他企業に発注し、委託し、あるいは共同でおこなうかという、その境界を指す。企業の境界は、生産にあたり必要な原材料や部品をどれだけ内製するか外注するか、あるいは販売を自社で行うか委託するか、という垂直統合の問題に関して広く論じられてきた。また、経理やシステムなどの管理業務をアウトソーシングする傾向も広がっている。

こうした事実にもかかわらず、研究開発における企業の境界についてのデータは、技術導入や共同研究、国立大学への委託研究や奨学寄付金などについての個別のものを除けば、存在しなかった。また、技術導入・技術提携やアウトソーシングなどの外部資源活用による研究開発活動を体系的にとらえた資料も存在しなかった。こうしたギャップを埋めるために行ったのが今回の調査である。対象は、バイオテクノロジー関連産業とした。

この調査結果をできるだけ迅速に幅広い読者に提供するため、本調査資料では、集計結果にほとんど手を入れることなく、また、最小限の解説のみを加えて、データとして提供している。調査資料本文については印刷体でのみ提供しているので、希望者は1resgr@nistep.go.jp あて申し込まれたい。